

鞆学区地域まちづくり計画

～伝統を受け継ぎ、
新しい歴史をはぐくむ～



2018年（平成30年）
鞆学区まちづくり推進委員会

はじめに

轄学区の地域まちづくり計画は、市内では一番遅い提出ではないかと思えます。元々学区のまちづくり推進委員会を中心に一つのビジョンを立て、形あるものにしていこうと取り組み、大体の骨格は描いていましたが、広島県が埋立架橋計画を撤回し、山側トンネル案でいく表明をして、その推移を見守ることとなりました。県が表明したトンネル案の具体が示されないままいたずらに日にちだけが経ち、焦燥の念にかられたのも事実です。

2年ほど前に県からその具体案を出しますとの話しが来て、一つの形として『轄まちづくりビジョン』を策定することが出来ると思い取り組みを始めたところです。その中で、最終的な策定は地元・轄の住民で責任を持ってやっていこう、ビジョンについては幅広い意見を求めていこうとの意見の一致を見て取り組みを始めました。

1. 『轄まちづくりビジョン』については、11回、延べにしますと1,500名余りの方々が参加し、轄まちづくりワークショップを開催し、その意見をまとめ何とか形あるものにする事が出来ました。2年余りの歩みでした。
2. 最終的にはビジョンで示されたまちづくりの目標（①安心・安全に暮らし続ける環境づくり ②伝統・文化を受け継ぐ ③出会い・ふれあい・支えあい）をテーマと課題として3つの部会に分け、町内会の加入者を対象に5回、延べにしますと500名余りの参加をいただき、意見交換を行い、『轄学区地域まちづくり計画』として集約ができました。

こうして多くの方々と時間を掛けて作成し、集約したものを冊子としてお手元に配布出来ますことを非常に幸甚と思っています。ただ、作成をしたら終わりではなく、始まりだと、その気持ちをお互いが新たにしていって轄のまちづくりを進めていきたい。

私たちが力を合わせて作った宝物です。是非とも大きく豊かに育っていくよう、今まで以上のお力添えをいただけたらと思います。まちづくりを大きく大きくするキーワードはあなたの手の中にあります。

こうした計画は、社会の変化や動きに左右される恐れもありますが、轄がめざす柱・旗はしっかりと頭上に掲げ、確実な歩みをしていきたい。皆様と共に。

終わりにになりましたが、この『轄学区地域まちづくり計画』策定に携わってくれた地元の皆さまをはじめ、関係をしていただいた皆さま方に感謝を申し上げます。

謹 啓

轄学区まちづくり推進委員会

委員長 大瀨 憲司

韮学区地域まちづくり計画

目 次

はじめに

1 韮学区の概要	1
1. 1 韮学区の概要	1
(1) 地勢	
(2) 歴史	
(3) 産業	
(4) 町の沿革	
(5) 気候	
(6) 人口の推移	
1. 2 韮学区の現状と課題	4
(1) 道路・交通	
(2) 災害への危惧	
(3) 人口動態	
(4) まちづくり	
2 まちづくり計画の基本方針	7
2. 1 まちづくりの目標	7
2. 2 まちづくりの方針	8
(1) 安心・安全に暮らし続ける環境づくり	
(2) 伝統・文化を受け継ぐ	
(3) 出会い・ふれあい・支えあい	
(4) まちづくりの体制	
3 まちづくりの取り組みと推進体制	12
3. 1 まちづくり推進委員会の組織体制	12
3. 2 取り組みと推進体制	13

1 鞆学区の概要

1. 1 鞆学区の概要

(1) 地勢

北に瀬戸内海は関門海峡、豊予海峡、紀淡海峡によって外洋と結ばれる地中海である。その中央、山陽路の南に突き出た沼隈半島の南東先端に栄えてきたまちが鞆である。西部は急峻な山が重なり、東部は海岸線を形成し、その間の南細長い平地に市街地が形成されている。

鞆の沖合は燧灘と呼ばれ、この海域にむかい、満潮時には、関門・豊予海峡からの潮流は東に流れ、紀淡海峡からは西に向かって流れここで合わさり、干き潮時にはその流れは逆転する。したがって、古来、瀬戸内海を航行する船は東から西に移動する時、満ち潮に乗って鞆に至り、干き潮に乗り西へ移動した。西から東への移動はその逆である。よって、鞆は「潮待ち・風待ちの港」と呼ばれ動力船の出現以前は瀬戸内航路の要の港であった。

大きな河川の流入しない港は土砂も堆積せず、仙酔島、皇后島、弁天島、玉津島などが自然の防波堤となり、天然の良港として機能した。人々は海に寄り添い、狭い土地を有効に活用し、生活用水を井戸水に頼り生活してきた。鞆港は燧灘沿岸では、第一級の港であった。



(2) 歴史

瀬戸内水上交通の「潮待ち・風待ちの港」として記紀(古事記・日本書紀)の時代から様々な歴史上の偉人達が寄港し、港町鞆は大いに賑わいを見せた。江戸時代の港町としての繁栄を示す遺構として、常夜燈(灯台)・焚場(修理ドック)・船番所(検問所)・雁木(荷揚げ階段)・波止(防波堤防)の五点が揃って残る港町は我が国で「鞆の津」(津二港)が唯一である。

また、平安時代の延喜式(927年)にも登場する歴史を語る神社「沼名前神社(祇園さん)」の門前町として、南北朝の乱以降、戦乱の世では軍事拠点として、江戸時代初めには福島正則が整備した鞆城の城下町として機能した。

近代においては自然(日本最初の国立公園である瀬戸内海国立公園)、歴史(様々な歴史的遺構・建造物・町並み)、行事(鯛網・花火・祭り)が彩る新たな観光の町として発展してきた。

(3) 産業

「潮待ち・風待ちの港」として繁栄してきた鞆は、江戸時代には北前船の寄港により港町として隆盛を極める。中村家、大坂屋などの豪商が興り商業都市としておおいに賑わった。しかし、地乗り航路(沿岸航路)から沖乗り航路、帆船から動力船への航海や造船技術の進歩発展は、かつての「潮待ち・風待ちの港」としての物流拠点鞆港の役割を喪失させた。刀鍛冶をルーツとする鞆鍛冶の歴史は、江戸時代より御用鍛冶として福山藩の庇護をうけ、船釘・錨などの船具生産に姿を変え鞆の産業を支えた。明治以後は鉄道敷設・軌条用品の需要を支え、日本の近代化とともに鉄製品の需要はさらに増え、建築材の伸鉄(鉄筋)は、かつては全国生産の3割を占めるほどであった。滑車、シャックル、建築金物等の生産も増加し、県内第一号の中小企業団地として昭和43年に「鞆鉄鋼団地」が成立した。しかし、バブル経済の崩壊以降は国内産業の衰退と時を同じくして、鞆の基幹産業ともいえる伸鉄を中心とする鉄工業も衰えてきた。

かつては、その時代時代を飾る基幹地場産業が存在し鞆の繁栄を支えてきた。現在、そのような中心産業を見出すことができない状況がある。「鞆の浦観光鯛網」として鯛しぼり網漁と鞆の景観を観光の目玉に観光産業の振興を目指してきた歴史があり、今また鞆の自然や歴史・古い町並み・映画のロケ地などを資源に観光産業の振興を図ろうとしている。



鞆の浦観光鯛網

(4) 町の沿革

鞆の歴史は、遙か遠く記紀の記述以前より始まる。瀬戸内交通の要衝として、いわゆる神代の時代からの歴史を持つ、伝統に彩られた港町として長い歴史を歩んできた。江戸時代の幕藩体制下、備後十萬石福山藩の領内では城下町の福山に次ぐ人口規模をもつ町であった。代官所がおかれ福山藩の海からの玄関口として機能した。(城下以外で〇〇町と呼ばれることは、鞆町の他は稀であった)。

明治維新後の近代行政制度のもとでは、1889(明治22)年の町村制施行にともない沼隈郡鞆町となり、1898(明治31)年には沼隈郡役所が鞆町におかれた。1942(昭和17)年、鞆町(初代)・田尻村・走島村が合併し、新しい鞆町が発足し、1956(昭和31)年福山市に編入され、今日の福山市鞆町となった。

(5) 気候

夏高温、冬温暖、年間を通じて少雨という典型的な瀬戸内気候である。「福山から鞆へ、^{さい}壱の峠(田尻町)を越えると肌着一枚ちがう(ほど暖かい)」といわれるぐらい温暖な気候は真冬でも降雪、凍結は珍しい。一年を通じて過ごし易い気候といえるが、盛夏には夕方、風がぴたりと止み、高温多湿のむしむしとした「瀬戸の夕凧^{ゆうなぎ}」が現れる。



日本遺産 鞆の浦

夕凧の鞆港

(6) 人口の推移

最盛期には一万人を超えていた人口もここ十数年来、急激な減少傾向にあり、少子高齢化に拍車がかかり、高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)は2017年9月末現在46%を超える。

年代	貞享元年 1684	元禄10年 1697	文化13年 1816	明治5年 1872	明治25年 1892	明治43年 1910	大正14年 1925	昭和10年 1935	昭和30年 1955	昭和50年 1975	平成7年 1995	平成25年 2013	平成30年 2018
戸数	658	719	1,123	1,220	1,877	1,945	2,234	2,243	3,728	2,697	2,423	2,124	2,011
人口	5,818	7,756	4,794	6,003	9,490	10,132	9,673	10,156	17,219	9,843	6,753	4,435	3,917

※昭和30年の人口増加は沼隈郡田尻町・走島町の鞆町への合併による。したがって、旧来の鞆町人口はこの数字より4~5千人減である。



秋祭り(チョウサイ)

1. 2 鞆学区の現状と課題

(1) 道路・交通

今や一家に1台以上の車が必要とされる車社会にあって、三百年前の江戸時代元禄期の地図上の道が今も残り、離合不可能な細く狭い突き当りの多い道路。昔ながらの町割り、一軒一軒の敷地がとてせまく駐車場の併設が不可能な家。鞆町はこのように、現代の車社会に適さないまちである。

沼隈半島の東の海岸を通り福山市中心部とつながる県道福山鞆線と、西側の松永町とつながる県道鞆松永線は相当整備が進み、大型車が行き来できるようになった。しかし、鞆港を挟み二本の県道は、普通車どうしの離合も困難な細い道でつながっているのみで、大型車は通過不能である。

小中学生の登下校時の交通安全問題、朝の通勤時の車の渋滞、年間を通じて数多く催される神事や町内行事、観光客が数多く訪れる時期の渋滞や駐車場不足。緊急車両の通行の妨げ。下水道工事の迂回路が無い江之浦、元町、平地区に配管できないなど、道路の機能不足による生活環境への弊害が多い。

交通課題としては、子どもが学齢期に達すると、保・幼・小・中学校は町内に存在するが、高校はバス通学に頼らざるを得ず、多くの保護者がその過大な通学交通費に頭を悩ます。また、路線バスの便数は鞆港から北側福山方面は多いが、南側松永方面は日に数便である。



町中の交通渋滞

(2) 災害への危惧

元来、自然災害の少ない地域ではあるが、後山が背後に迫り、海岸沿いに狭い宅地が広がる町並みは、山側の大雨洪水による土砂災害、海側の台風の高波や高潮、地震後の津波と、もしもの場合には自然災害にもろい一面を持つ。3.11 東日本大震災以後、防災から減災へと国民の自然災害への意識の変化がみられるようになってきたが、鞆町の防災対策はさまざまな課題を抱えているといえる。

かつては、後山からいくつかの谷筋を流れ、街中を小川として海に流れ込んでいた水は、明治以後、その流れは暗渠とされ、海に注ぐ。河川の無い鞆町中心部には「ささやき橋」「極楽橋」等の地名が残っている。水路は地中を走るが、その水路は長い年月整備はされておらず、大水害が発生した場合の排水能力が危惧される。

近々の発生が予想され、その対応が国を挙げての課題となっている「東南海地震」の津波被害に対し、福山市は「津波高潮ハザードマップ」を作成し注意喚起しているが、町内の具

体的避難場所の整備は進んでいない。また、こうした自然災害時に鞆に至る海岸沿いの道路網、山側からの進入路が寸断された場合、まさに町全体が孤立してしまう。

道路だけでなく、いわゆるライフラインの寸断に対して、かつて鞆が港町として賑わっていたルーツとして往時を偲ばせている井戸の多くは現在、使用不可能であったり、使われていても電気ポンプによる汲み上げのため緊急時には作動できないものが多いと思われる。



県道福山鞆線の土砂流出状況



防災訓練の様子

(3) 人口動態

就職や結婚を契機に鞆を出る人もいる一方で、鞆のまちに愛着を感じ、移住を望まれる方もいる。しかし、空き家があっても流通が少なく家が入手できない。また、家を手に入れたとしても、古い町割り故に、狭い敷地が多く、現代的生活を求めることは難しい状況である。

結果として、かつては一万人を上回った人口も2017年9月末現在4000人を下回り、急激な少子高齢化が進んでいる。最盛期は全校生徒が1500人を超える市内でも有数のマンモス校であった鞆小学校は、今や1学年1クラスであり全校生徒は120人あまりである。学区の高齢化率は46%を超え、市内でも上位である。町内の活動を支えてきた様々な組織の中心人物も高齢化が進み、その活動に支障が生じてきた。交代すべき若者の数も減少し、中には活動を停止する組織もでてきている。

(4) まちづくり

陸上交通の発達により、日本は近代国家としての経済的発展を確実なものとしてきた。その発展のなかで、かつての海上交通をもとに栄えた鞆港は寂れ、道路行政の遅れは陸の孤島化をまねき、経済的に他の地域に比べ後れを取るようになった。

生活環境の改善と鞆の町の発展を旨とした取り組みとして、平・焚場地区と道越地区を結ぶ幹線道路整備として、鞆港の一部を埋め立てて、橋を架けるいわゆる「埋立架橋計画」が1983年（昭和58年）に港湾計画に位置付けられた。また、福山市は、1996年（平成8年）に埋立架橋計画に基づく「鞆地区まちづくマスタープラン」を策定し、これを指針とし

て総合的なまちづくりを推進することとしていた。しかし、景観保全と生活環境改善の主張がぶつかり、マスメディアに晒されながら論争が続いた。2016年（平成28年）に広島県と福山市が、マスタープランの柱としていた鞆地区道路港湾整備事業における埋立申請を取り下げて、訴訟が終結するまでの三十数年間、鞆のまちづくりは停滞した。



鞆地区まちづくりマスタープラン

そうした進歩発展の遅れの代償として、町内に江戸期、大正、昭和の建築物が混在する町並みが残ったことが、多くの観光客の郷愁を誘い、結果、福山市を代表する観光地となっている。

現状、衣・食・住環境において、年々生活を支える商店（小売店）が減少しつつある中で、鞆町中心部は辛うじて、洋品店・食料品店・工務店・病院などが存在し、日常生活が町内で完結できる状況であるが、小売店の少なくなった平地区においては、車を持つ人々は県道鞆松永線を使い西側に隣接する沼隈町千年地区にある大型スーパーへ買い物に出かけている現実が見られる。そうした中、交通関係者の協力で新たな交通手段を模索している状況である。

狭く不自由な土地柄と少子高齢化を逆手に取り、子どもやお年寄りが安心安全に豊かな生活ができ、かつ、観光面でも魅力あるまちをめざしたまちづくりを進める必要がある。

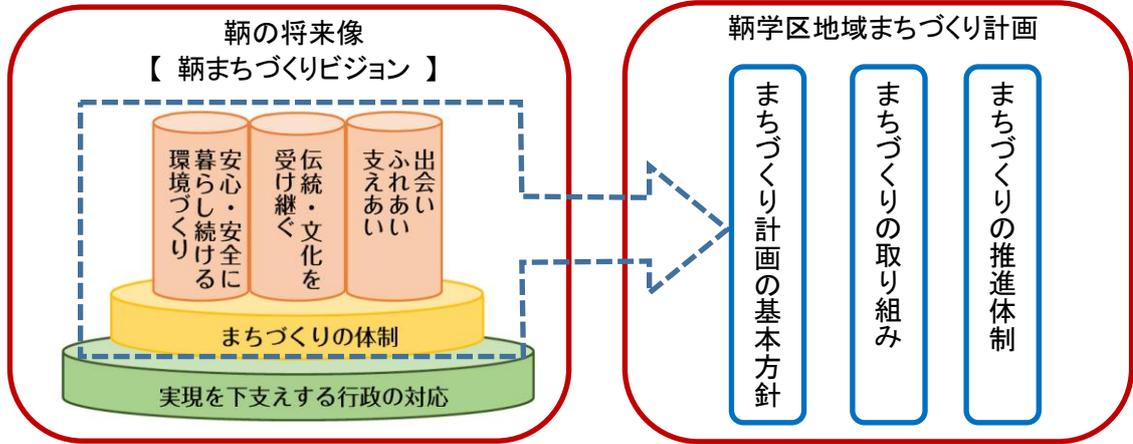
鞆の将来像を描いた「鞆まちづくりビジョン」策定の取り組みとビジョンの実現に向けた具体的な取り組みと体制について話し合った「鞆学区地域まちづくり計画」策定の取り組みを通して、住民どうしの対話が進み、地域住民の安心・安全でより住みやすいまちづくりの思いが実現できるように住民と行政が一体となった取り組みが望まれる。



2 まちづくり計画の基本方針

2.1 まちづくりの目標

鞆の将来像は、「鞆まちづくりビジョン」における5つの項目で表されています。このうち、鞆学区地域まちづくり計画では、「実現を下支えする行政の対応」を除く4項目を地域まちづくり計画の目標とします。



まちづくりの目標

<p>(1) 安心・安全に暮らし続ける環境づくり</p>	<p>① 子どもから高齢者、障がいのある人も安心・安全に暮らし続けることのできるまちづくりを進めます。</p> <p>② 空き家対策、雇用の創出、日常の買い物場など、暮らしやすいまちづくりを進めます。</p> <p>③ 災害に備え、防災意識を高め、住民どうしの助け合いを大切にするとともに、避難場所・経路や緊急車両の通行の確保、自助・共助による防災体制の強化を含めた防災・減災対策を行います。</p>
<p>(2) 伝統・文化を受け継ぐ</p>	<p>① 鞆の歴史的・文化的価値の認識を共有し、町並みの保全をはじめとした文化財の保存・活用を図ります。</p> <p>② 重要伝統的建造物群保存地区をはじめとする鞆の歴史・文化の情報を発信します。</p> <p>③ 住民どうしを繋ぐ伝統行事である祭りを継承します。</p>
<p>(3) 出会い・ふれあい・支えあい</p>	<p>① 地域の繋がりを活かし、誰もが自分らしく輝き活躍できるまちづくりを進めます。</p> <p>② 子育てしやすいまちづくりを通じ、将来の鞆を担う子どもが地域に愛着を持ち、夢を育み育つことのできる環境をつくります。</p> <p>③ 鞆に暮らす人も訪れる人も快適に過ごし、多様性を認めあうまちづくりを進めます。</p>
<p>(4) まちづくりの体制</p>	<p>① 子どもたちから高齢者までの各世代、また、組織、団体など多様な主体が連携したまちづくりを進めます。</p> <p>② 鞆の未来のために、鞆の浦学園、鞆こども園を大切なまちづくりの主体として位置付けます。</p> <p>③ 鞆まちづくりビジョン実現のための体制や役割を明確にし、短期的な取り組みと中長期的な取り組みを計画的に行います。</p>

※ 鞆小学校と鞆中学校は2019年(平成31年)4月1日に統合して小中一貫の義務教育学校「鞆の浦学園」になります。

2. 2 まちづくりの方針

(1) 安心・安全に暮らし続ける環境づくり

- ① 子どもから高齢者、障がいのある人も安心・安全に暮らし続けることのできるまちづくりを進めます。

■見守りのまちづくり

登下校時の見守りや日常の声かけ、放課後・休日等の子どもの居場所づくりなど地域全体で子どもを見守ります。また、年をとっても孤立せず安心して暮らせるよう、子どもたちを含めた地域全体で高齢者を見守ります。

■安全な道づくり

車の道、路地は、生活の場であるとともに、ふれあいの場でもあります。道行く人の安全が確保できるように、注意喚起や交通ルール遵守の啓発を行うとともに、行政と連携して町中の交通量を減らします。

■自然と町並みの景観を大切にすまちづくり

背後の山や島の風景といった自然景観や町並み景観を守るために美化活動を行うなど、きれいなまちづくりを進めます。

- ② 空き家対策、雇用の創出、日常の買い物の場など暮らしやすいまちづくりを進めます。

■空き家を活かすまちづくり

地域の交流スペース、事業者や移住者の受け入れ場所として空き家の利活用を進めます。

■賑わいの場づくり

町内外の事業者や行政と連携して日々の暮らしを支えるとともに、車の魅力や資源を掘り起こして、賑わいの場、働く場をつくります。

■暮らし続けられる住環境づくり

若者世代が車に住み続けられる、また、町外の人が車を移住先として選びたくなるような住宅環境や教育文化環境づくりを進めます。

- ③ 災害に備え、防災意識を高め、住民どうしの助け合いを大切にするとともに、避難場所・経路や緊急車両の通行の確保、自助・共助による防災体制の強化を含めた防災・減災対策を行います。

■災害に強いまちづくり

いつ起きるか分からない自然災害に備えて、地区防災計画の作成や防災訓練の実施など地域の防災体制づくりに取り組み、災害発生時には関係機関と連携して、すみやかに被災者の支援や要援護者の援護などができる災害に強いまちづくりを進めます。

(2) 伝統・文化を受け継ぐ

- ① 鞆の歴史的・文化的価値の認識を共有し、町並みの保全をはじめとした文化財の保存・活用を図ります。

■歴史・文化を活かすまちづくり

鞆の歴史・文化は、鞆の人の誇りであり、全国的にも価値があるものと認識して守っていきます。

伝統的建造物等の修理・修景を基本とする町並みの保存をはじめとする文化財等の保存・活用に地域一体で取り組みます。

歴史民俗資料館など町並み保存の拠点となる施設を活用して、鞆の歴史・文化を学習する機会を増やして、観光ボランティアガイドの取り組みを広げるなど、歴史・文化を教育や観光に活かしたまちづくりを進めます。

- ② 重要伝統的建造物群保存地区をはじめとする鞆の歴史・文化の情報を発信します。

■情報発信するまちづくり

「歴史と文化のまち“鞆”」の知名度向上をめざして、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定やユネスコ「世界の記憶」の登録など歴史・文化に関する話題や情報を広く国内外へ発信します。

- ③ 住民どうしを繋ぐ伝統行事である祭りを継承します。

■伝統・文化を継承するまちづくり

鞆の祭りや行事は、地区どうし、また、世代間の繋がり原点です。祭りや伝統行事を継続するとともに、交流の場を通して子どもたちや若者へ役割を与え、将来の担い手として育てます。

また、伝統・文化の継承の手助けとして、祭りや伝統行事を記録、保存していきます。

(3) 出会い・ふれあい・支えあい

① 地域の繋がりを活かし、誰もが自分らしく輝き活躍できるまちづくりを進めます。

■ 繋がりを活かすまちづくり

日々のつきあいや子どもや高齢者を含めた世代間の交流を大切にするとともに、スポーツや行事を通して地域の繋がりを深めます。また、個人や団体、町内会などが行うさまざまな取り組みについて、町全体での情報共有を進めます。

■ 高齢者にやさしいまちづくり

元気にいきいきと暮らせるようサロンや健康教室など交流や相談の場を提供するとともに、買い物支援や行事への参加など高齢者の暮らしを支えます。

■ 全員参加のまちづくり

鞆に住む人、鞆で働く人、子ども、若者から高齢者まで一人ひとりが、まちづくりやまちの魅力発信における役割を持ち、地域福祉活動、観光ボランティアガイド、祭りや行事の運営や手伝いなどを行う「全員参加」のまちづくりを進めます。

ゆずりあい、認めあいの気持ちを大切に、一人ひとりが培ってきた経験や能力をまちづくりに活かすとともに、個人や団体が行うさまざまな取り組みを応援し、地域の支えとしてまちづくりに活かします。

② 子育てしやすいまちづくりを通じ、将来の鞆を担う子どもが地域に愛着を持ち、夢を育み育つことのできる環境をつくります。

■ 子育てにやさしいまちづくり

安心して子育てできる環境をつくるとともに、子育て世代の負担となっている高校通学の支援など地域全体で子どもを守り育むまちづくりを進めます。

■ 魅力ある子育て環境づくり

町外の子どものとの交流を進めるなど、子どもがのびのびと活動、活躍する環境をつくるとともに、鞆こども園や義務教育学校の活動と地域の取り組みとの連携を図り、町外の人が鞆で子どもを育てたいと思うような特色ある保育や学びを支援します。

- ③ 鞆に暮らす人も訪れる人も快適に過ごし、多様性を認めあうまちづくりを進めます。

■おもてなしのまちづくり

「おもてなしの心」は昔から鞆のまちにあふれています。鞆に暮らす人の生活を大切にしながら、行事やイベントへ町外の人への参加を受け入れる、また、「鞆で働きたい」、「鞆で暮らしたい」という人を温かく迎え入れるやさしいまちをつくりたい。

観光ボランティアガイドの研修会や子どもや外国語でのガイドへの取り組みを企画するなど、ガイドの活動を継続、拡大します。

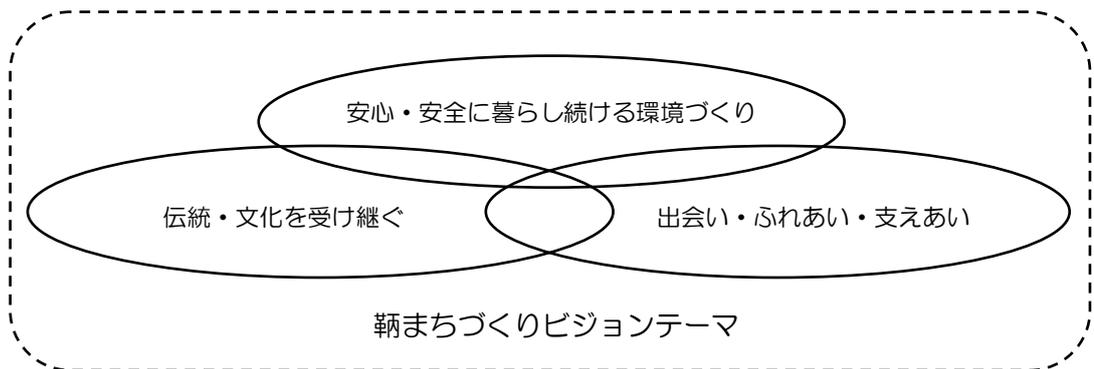
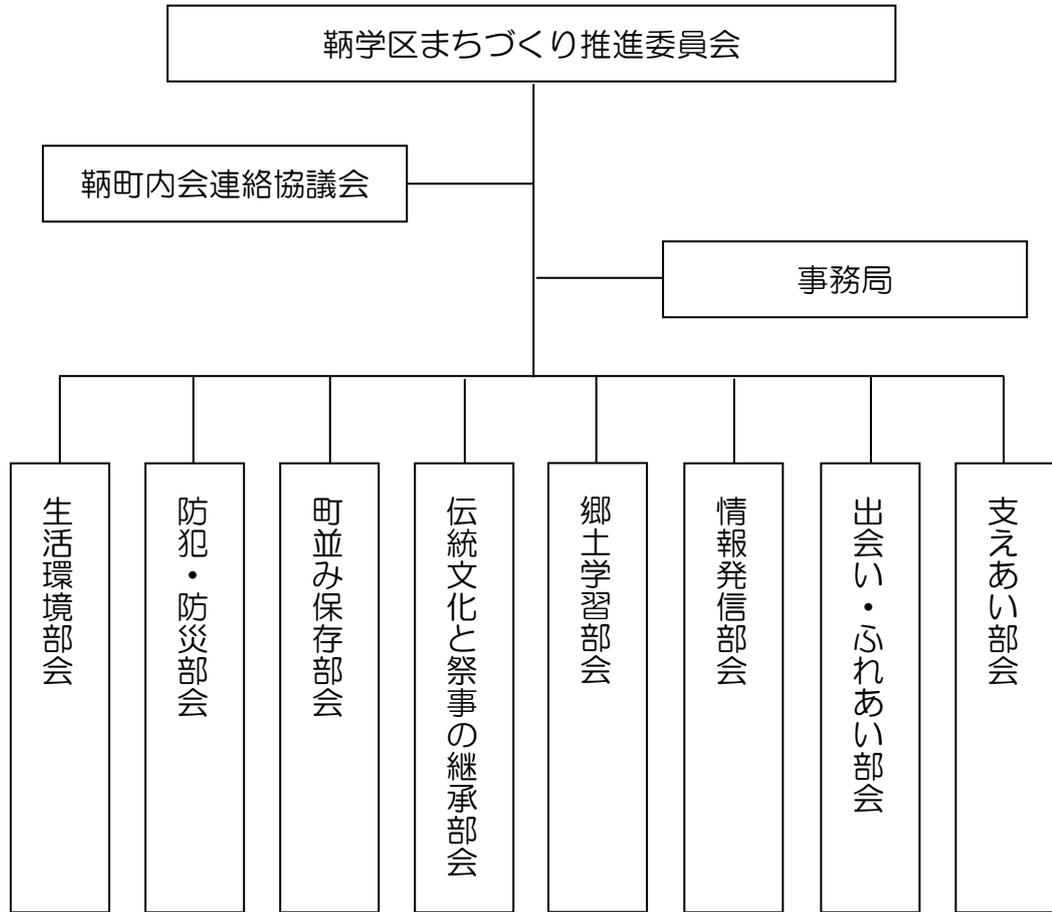
おもてなしの心を大切にした観光客への親切な対応、案内や情報発信を通して、「来てよかった」、「好きになった」、「応援したくなった」、「住みたくなった」と言われるまちづくりを進めます。

(4) まちづくりの体制

- ① 子どもたちから高齢者までの各世代、また、組織、団体など多様な主体が連携したまちづくりを進めます。
- ② 鞆の未来のために、鞆の浦学園、鞆こども園を大切なまちづくりの主体として位置付けます。
- ③ 鞆まちづくりビジョン実現のための体制や役割を明確にし、短期的な取り組みと中長期的な取り組みを計画的に行います。

3 まちづくりの取り組みと推進体制

3. 1 まちづくり推進委員会の組織体制



<事務局>

まちづくり推進委員会委員長・まちづくり推進委員会副委員長
まちづくり推進委員会各部会長・まちづくり推進委員会会計
町内会連絡協議会役員
鞆公民館

3. 2 取り組みと推進体制

地域まちづくり計画推進体制

テーマ	部会	取り組み内容	構成団体
安心・安全に暮らし続ける環境づくり	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 一斉清掃 地域美化の推進 買い物支援（地元商店の協力による配達や注文・いきいきサロン等での販売） 町内会の協力による空き家調査 空き家情報の窓口（入居受け入れと地域活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 鞆町内会連絡協議会 鞆町民生・児童委員協議会 鞆学区公衆衛生推進委員会 鞆町老人クラブ連合会 鞆学区の福祉を高める会
	防犯・防災	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練 要支援者の把握 登下校時の見守り 自主防災組織の再構築 災害に応じた対応マニュアルの作成（地区（学区）防災計画の作成） 見守り隊など高齢者の見守り 	<ul style="list-style-type: none"> 鞆町内会連絡協議会 鞆町民生・児童委員協議会 鞆学区自主防災協議会 鞆学区行政職員の間 鞆小学校／PTA 鞆中学校／PTA
伝統・文化を受け継ぐ	町並み保存	<ul style="list-style-type: none"> 町並み視察研修（他地区への視察や視察の受け入れ） 鞆まちなみ保存会による町民と行政との橋渡し（伝建制度の周知・修理・修景の相談窓口） 資料収集・学習会の企画（有志団体との協力・連携） 	<ul style="list-style-type: none"> 鞆町内会連絡協議会 鞆まちなみ保存会
	伝統文化と祭事の継承	<ul style="list-style-type: none"> 鞆・町並ひな祭 八朔の馬出し なでしこ太鼓・アイヤ節 大漁節 盆踊り 神能祭 祭りの参加ツアー（祭りへの協力・祭りの担い手育成） 伝統行事の記録と保存 	<ul style="list-style-type: none"> 鞆町内会連絡協議会 鞆小学校／PTA 鞆中学校／PTA 鞆学区子ども会育成協議会
	郷土学習	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座 鞆の町再発見・図録 祭事、行事の意味を伝える 児童生徒によるボランティアガイド 	<ul style="list-style-type: none"> 鞆町老人クラブ連合会 鞆学区子ども会育成協議会 鞆小学校／PTA 鞆中学校／PTA 鞆まちなみ保存会
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアガイドの養成（説明内容に差異がないようマニュアル作成） 一年を通じた行事に参加できるよう行事の内容や祭りの意味などを町全体で情報共有 鞆の魅力発信 生活全般の情報発信 情報伝達手段を確保する おもてなし企画 	<ul style="list-style-type: none"> 鞆町内会連絡協議会 鞆学区行政職員の間 鞆小学校／PTA 鞆中学校／PTA 鞆町人権学習推進協議会 鞆学区の福祉を高める会
出会い・ふれあい・支えあい			

テーマ	部会	取り組み内容	構成団体
出会い・ふれあい・支えあい	出会い・ふれあい	<ul style="list-style-type: none"> ・忍者ごっこ ・あつまれ鞆っ子 ・鞆学区ふれあいまつり ・各種スポーツ大会 ・鞆町民運動会 ・文化交流の場を設ける（一芸を持つ人の発表・交流の場） 	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆体育会 ・鞆町内会連絡協議会 ・鞆学区行政職員の会 ・鞆学区子ども会育成協議会 ・鞆町老人クラブ連合会 ・鞆小学校／PTA ・鞆中学校／PTA
	支えあい	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの育成 ・世代間交流（子ども中心のイベント・食のイベント） ・鞆の浦学園との連携（鞆の特徴・特色が体现できる学校にする） ・鞆こども園との連携 ・サロン・健康教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆町内会連絡協議会 ・鞆町人権学習推進協議会 ・鞆町民生・児童委員協議会 ・鞆町老人クラブ連合会 ・鞆学区の福祉を高める会 ・鞆学区子ども会育成協議会
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり運営事業 ・町内の様々な組織がまちづくりに関わる ・若者世代がまちづくりへ参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆学区まちづくり推進委員会全体

※鞆小学校と鞆中学校は2019年（平成31年）4月1日に統合して小中一貫の義務教育学校「鞆の浦学園」になります。

※必要に応じて、任意団体や有志の会との連携を図ります。

